

議長（前原英石君） 1 番 森 弘秋君。

1 番（森 弘秋君） 1 2 月 1 4 日は赤穂浪士の吉良邸討ち入りの日。遠い昔の快挙にあやかると、「おのおの方、選挙でござる」と陣太鼓が鳴るのだろうか。

急な解散風に、大義名分がないと某新聞に書いてあった。まさに今は総選挙の真っただ中。しかし、国会は国会。我が村をどうするかであります。

早いもので 1 2 月です。駅前のイルミネーションがきれいになりました。

舟橋駅前の時計が、あまり当てにならなかった時計とでも申しましょうか、ようやく新しいものになるようです。駅の顔が 1 つよくなります。

私は 9 月議会で、舟橋村の安心・安全のための危険箇所等の再点検等について伺いました。答弁では、ハザードマップはリアルタイムで見直しをかけている。今後も、地域住民の安心・安全の確保のため、関係機関と連携を密にしながら、危険箇所等の点検、改善に努めてまいりたいとのことでした。しかし、具体的に聞き取りもなし。調査に至っていないのではないかと考えております。住民の安心・安全は広いのです。

国、県では、平成 2 7 年度の予算要求の時期です。舟橋村も、今ほど話にありましたように、1 2 月から 1 月にかけて 2 7 年度の予算要求。重点事業の箇所づけ、編成の大事なときであります。ハザードマップにあぐらをかいていないで、視点を広げて考えてもらいたいと思います。

さて、第 1 の質問は、既にある施設・設備の発展的整備と対策についてであります。安心・安全の確保に関する課題です。

初めに、舟橋駅構内に水施設があります。施設が劣化したのか、今は起動していません。数年前になりますか、水が流れ出るのを見た記憶がありますが、現在はカモシカ君の絵が置いてあります。飾ってあるのかどうか分からない状態です。

普通に考えると、カモシカ君には悪いが、なぜ貴重なこの水施設正面に飾られているのか。仮に置かれているのだと思いますが、不思議でなりません。

カモシカ君の宣伝を前面に出すのであれば、水施設を解体し、額装などして見ばえをよくすればと考えますが、いかがでしょう。

舟橋駅にたびたび行きますが、不自然でなりません。人間というものは、ならされると何とも感じなくなるものですが、「おや、なぜ」と見直してみる必要があります。

私だけでなく、「なぜここにカモシカ君なの？」と疑問を持つ人がいると思われれます。「おや、なぜ」、哲学の精神です。

駅は舟橋村の顔ではないでしょうか。カモシカ君には別の場所を考えるかきちんと装飾をつけるなどして、水施設を含め整備しましょう。

また、舟橋駅の地下通路には、北側、南側に当然にして階段があります。当時は北側、南側の連絡通路は画期的でよかったかもしれませんが、この高齢化の時代、高齢者は階段の使用について難儀をしております。

そこで、駅構内の階段の2分の1にエスカレーターの設置、南側、駅南駐車場の階段にはエレベーターの設置について考えられないだろうか。

つい先日、久しぶりに舟橋駅でございました。2番線に到着。駅舎の反対側のホームです。おりたのは、手押し車を引いておられる高齢のご婦人の方と私と2人。80歳前後のお年寄りだと思います。ご婦人はホームの階段で手押し車を持ち、おりるのに難儀をしておられた。恐らく1番線に上るのも大変だろうと思い手助けをしたのですが、何とこのですか、手押し車を引いてホームの階段をおりられる。上られる。何と不便なことか。思わず「おばあさん、手押し車を持ちますよ」と、反対側の1番ホームまで持ってあげました。ご婦人は何回も「ありがとう、ありがとう」と言い、次に出た言葉が「若い者が皆勤めに行っていないものですから」。恐らく心の中では、かわりに私が買い物に行ったんですよという話をしたかったのかなというふうに思いますが、地下道を通るのがそんなにしんどいならば踏切を渡ればよいではないかと思われるかもしれませんが、私はそうは思えません。やはり地下道がそこにありますから地下道を渡ります。

以前に図書館を利用する人の駐車場が足りないと問うたとき、そのときには駅南駐車場を利用してくださいとのことでありました。当然にして地下通路を通ることになります。

このように、いろんな箇所でご高齢の方は悲鳴を上げておられるのではないのでしょうか。

もっとこのような意見、要望に耳を傾けられないか。そういったきめ細かい問題に取り組んでもらいたいと考えます。

いずれにしても、ホームの階段は別として、地下道はエスカレーター、エレベーターの整備が必要であると思います。「ローマは一日にして成らず」と言いますが、前向きに検討していただきたいというふうに考えます。

エスカレーターについてもう1つ、舟橋会館にエスカレーターの設置は考えられないか。

玄関ホールから1階ホールなどに行くとき、スロープによる通路と階段があります。やはり階段を利用するのが圧倒的です。

最近、何度も大ホールを利用する機会があり、この階段の上り下りに大変難儀をしています。

また、玄関ホールから1階ホールにはスロープがありますが、2階に上るのにスロープがありません。不思議の一つであります。建築時はよかったと思いますが、今のように多方面に使用、利用するときにはいかなものかと思えます。

次に、諸施策の検証とでも言いましょうか、ウォーキングロードの道路案内板については、11月初めに修理といいますか取りかえがしてありました。私から見れば、ようやく直したのかの感であります。

これも問題ではあります、ウォーキングロードは整備してから5年が経過しております。整備したから、「村民よ、後はよきに諮られよ」ではいけないと思えます。行政サイドでももう少し活用方法をアドバイスできないでしょうか。

例えば1年に1回の歩こう会が行われておりますが、年2から3回行う春の歩こう会、秋の歩こう会など、さらには地域単独の歩こう会の実施、コミュニティ振興交付金の活用によりウォーキングロードを使用した地域に懸賞を与えとか。

いろいろな健康講座でも促しておりますが、とにかく歩くことは非常に健康によいとされております。健康日本一を唱える舟橋村として、まず歩くこと、そしてコースの利用のPRをしていただきたい。1日に1万歩を目標として、まず歩きましょう。

次に、各地域に整備されている公園の活用であります。公園は、ご存じのとおり、都市計画法、公園の設置基準に基づき設置されておりますが、残念ながら、各地域の公園を利用している人はとんと見かけない。たまに子どもたち数人が遊んでいるのを見かけるのみです。

さて、2つ目の質問は、各地域にアットホーム的な集会場の整備ができないかです。

現在は舟橋会館にサロンが1室用意されておりますが、登録された団体のみが利用できることになっております。この枠組みを外し、多くの村民が利用できるようにしてはいかがでしょう。最近多く利用しているのは、舟橋寿会が主であるというふうに見受けられます。記録を見ますとほとんど空白、舟橋寿会だけが使用しているというふうに見受けられます。ほかに行政相談が時々利用されていると思われれます。

ところで、舟橋村の平均年齢は38歳前後と今は若い。しかし、新興団地の方々も含め、これから高齢者が増えるところから、地域内交流も盛んにする必要があると考えます。

さきの議会で川崎議員の地域包括支援対応について、一般介護予防事業や介護予防・生活支援サービス事業の対象となる高齢者の受け皿として、通いの場づくり、集いの場づくり、地域の中に居場所や生きがいを見つけられる場所をつくる 先ほども村長が答弁で言うておられましたけども と答えておられるが、まさにそのとおりであり、私の提案するアットホームは、時には会議場であったり、仕事の間であったり、遊びの間であったり、例えば、最近新聞等々でにぎわしておりますが、健康麻雀のできるゲーム場であったり、高齢者はもとより、老若男女を問わず、団らんの場の提供が必要と考えます。

こんな話を聞きました。高齢者の方では舟橋会館は使いづらい。なぜかわかりませんが、そしてまた、地域の公民館も簡単に使えないと。いつでも気軽に数人単位でよい。遊び場所があればよいと言うておられます。こういった意見も聞きます。

会館サロンはサロンで使用することにし、ほかに各地域に、主として高齢者ではありますが、老若男女を問わず、村民であれば誰もが自由に使用、利用できる地域サロンの開設を考えられないものか。

まさにエイジレス時代の到来であり、村長も地域における居場所が大切であると説いておられます。

そこで、先ほども申しましたが、これから増える高齢者、新興団地の方々も含め、遊ぶ場所、例えば空き家の再利用あるいは民間企業等の空き施設で、用途期限が切れた施設等を利用することも考えられるのではないのでしょうか。

例えば舟橋寿会で要望していゲートボールクラブ部室を改造して利用するなど、格好の場所と考えますが、いかがなものでしょうか。

これからの高齢化社会を踏まえ、発展的な、そして現実的な整備について村長の考えをお聞きします。

議長（前原英石君） 総務課長 松本良樹君。

総務課長（松本良樹君） 1番森議員さんの既存施設・設備等の今後の活用についてのご質問に私のほうからお答えをいたします。

森議員のご質問の趣旨は、村の所有する公共施設や設備について利用実態を検証し、

時代の変化や将来予測に基づく施設の有効活用を検討しているのかということであると認識しております。

議員から、ウォーキングロード、京坪川河川公園、地区公園等の利用状況、さらには駅周辺施設の将来を見据えた改修などのご意見をいただきました。

まず、舟橋駅地下道にエスカレーターやエレベーターを設置してはどうかについてでございます。

駅におけるエレベーター等の設置判断基準といたしましては、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律に基づく移動等円滑化の促進に関する基本方針によれば、1日当たりの平均的な利用者数が3,000人以上の鉄軌道駅は、平成32年度までに原則、段差の解消、視覚障害者の転落を防止するための設備の整備等の移動等円滑化を実施するとしております。

平成25年度の舟橋駅乗降客数は1日平均466人でありまして、緊急に整備する必要はないものと考えております。しかし、議員ご指摘のとおり、将来を見据えた整備計画は重要であり、今後検討する必要はあると考えております。舟橋会館につきましても同様であります。

次に、舟橋駅地下道横にある噴水設備につきましては、現在使用を中止している状態であり、今後の対応につきましても検討をしてみたいと考えております。

また、駅にありますカモシカパネルのことでありますが、ご存じのとおり、平成20年に天然記念物のカモシカが本村図書館に迷い込んだことが全国ニュースに取り上げられたことから、本村並びに図書館のPRを目的に平成21年度絵本『カモシカとしょかん』の発刊を記念に、駅前時計塔の下に設置いたしましたものであります。

設置後5年が経過したことから、昨年度新たに「日本一小さな村」の看板を時計塔の下に設置したことにより、カモシカパネルの処分も検討いたしましたが、本村図書館は現在でもカモシカ図書館として人気が高いため、今後もPR用に使えると判断し、現在の場所に移動したものであります。

次にウォーキングロードについてですが、ウォーキングロードは、住民の健康促進を図る目的に平成22年度に完成いたしました。その後、ウォーキングマップの配布や村民の歩こう会を開催してまいりましたが、現在ではヘルスポランティアが歩こう会を継続して実施しております。

それぞれの経緯もあり、ウォーキング人口は増えてきたと感じておりますが、実際の

利用者数について把握しているわけではございませんが、コース別に利用者数に開きがあると聞いております。

現在、ウォーキングロードには、しらいわがわ4.1キロ、ほそかわ3.5キロ、いなり2.5キロ、ぶっしょうじ2.0キロの4つのコースがございます。

一番ロードの長いしらいわがわコースは、ほかのコースの利用者に比べて少ないようですが、コースの選定は、各自の体力に応じて無理なく継続することが最も大切なことであると思っております。

本村は日本一健康な村を目指しており、今後も各種団体と連携しながらウォーキングを推進してまいりたいと考えております。

次に、京坪川河川公園や地区公園についてでございます。

本来、公園は地域のコミュニティ醸成の場であり、多くの住民の方が交流する場所であればいけません。しかし、現状はその機能が十分に発揮されているとは言いがたい状態でございます。

京坪川河川公園のことですが、現在、産学官金連携によるプロジェクトの中で、今年度用地取得いたしました公園用地の整備計画とあわせて検討しております。

単なる公園整備に終わることなく、公園の活用方法も含めて民間企業より提案をいただいております。来年3月には計画案を策定する予定でございます。

一方、地区公園は当該地区の住民交流が目的に設置されているものであり、行政主導ではなく、地域でどのように活用していくのかを検討していただくことも大変重要なことであると思っております。各自治会にはぜひ役場側にそれぞれのご提案をいただきたいと考えております。

いずれにいたしましても、議員ご指摘のとおり、現段階から将来を見据えて検討することは重要なことでもあります。今後十分に時間をいただきながら、前に述べましたとおり、住民の皆様とともに検討を進めてまいりたいと考えておりますので、議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げまして答弁といたします。

議長（前原英石君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 1番森議員さんの憩いの場の整備についてのご質問にお答えいたします。

日本は今、超高齢化社会を迎えまして、健康長寿社会の実現に向けた取り組みが、国をはじめとする各自治体の主要課題であると思っております。

幸いなことに、本村は人口増施策が功を奏しまして、子育て世代の人口流入によりまして、現在、村民の平均年齢は38歳代と非常に若く、元気な活気のある村と言えますわけですが、今後は着実に退職世代、いわゆるイージレス世代の人口が増えていくということが予測されるのであります。

長寿社会では、高齢者である皆さんの地域での居場所や役割は大変重要なポジションでありますので、村といたしましても、現段階からその施策を進めていく必要があると思っております。この主要施策といたしましては、平成25年度にふなはしむら健康構想を策定し、今年度から、高齢者世代が地域の中に楽しみや居場所を見つけるためのエイジレスカフェ事業に取り組むこととしております。

森議員から指摘がありましたコミュニティーの場は、高齢者世代の受け皿として求められている重要なことであると認識しております。

しかし、単に施設を整備することだけでエイジレス世代の交流促進につながるとは私は考えておりませんので、舟橋会館や京坪川河川公園、そして地区公園などの既存の施設も立派なコミュニティー醸成の場であるとも考えております。

このことから、既存施設の有効活用を図った上で不足する機能整備をしていくことが最も大切なことであり、住民のニーズを十分把握いたしまして、そういった意見やあるいはまた提案を具現化するということが重要と思っておりますので、今後、十分検討してまいりたいと思っております。

さて、先般、本村のゲートボール協会から、ゲートボール場の横に設置されておりますプレハブの建物を会員以外の方との交流の場として活用したいというような提案がありました。

さらには、高齢者世代の交流に加えまして、隣接する学童保育室の子どもたちやその保護者との交流も図りたいというふうに言っていただいたわけであります。

私は、この子どもの保護者との交流に当たっては何らかの仕掛けが必要だと思えますけれども、大変積極的な意見をいただいた、提案いただいたということで、今後、十分支援対策を考えてまいりたいと思っております。

現在のところ、本村にとりましては高齢化対策は喫緊の課題ではありませんけれども、10年あるいは20年、30年先を見たときには、それぞれの施策を講じていくということは大変大切なことであります。そういった施策の立案といいいますか計画の推進に当たっては、多くの住民の方に参画していただくということも大切だと思っております。

いずれにいたしましても、住んでよかったと思える村を目指しまして、今後とも住民の皆さんとともに舟橋村の将来像を創造してまいる所存であります。どうか議員各位の皆さんにはご理解とご協力をお願いいたしまして、答弁とさせていただきます。

議長（前原英石君） 1番 森 弘秋君。

1番（森 弘秋君） 今ほど答弁ありがとうございます。

エレベーターですか、何か1日3,000人と聞いたんですが、それはそれとして、遠い将来といたしますか、希望的観測を持って今後整備を進めていきたいということでありましたので、よろしく願いたいというふうに思います。

それから、水施設の話で、今度時計塔がよくなりますよね。それが舟橋駅前の顔だと言いましたように、水施設もそうですが、カモシカ君も、私はだめだと言っているんじゃないかと、カモシカ君を飾るのなら、もう少し見ばえといたしますか、きちんと、あの場所ではなく、あの場所というのはちょうどホーム側の窓側なんですよ。あそこから外が見えるんですよ。外を遮断しているんですよ、あのカモシカ君は。私はカモシカ君がだめだと言っているんじゃないかと、それなりに額装、額装というのは飾りつけるということですよ。額に入れるなりして、きちんとしたもので、あの場所ではなくて、もう少し何かいい方法があるのではないかと。

とすれば、カモシカ図書館なり舟橋駅のあるいは舟橋村の顔として、これからもしたくさんの方がおりてくるとするならば、舟橋村を売るといいますか宣伝するといえますか、そういったものに役立つというふうに思いますので、努めて、なるべく早くそこらへんの整備をお願いしたいというふうに思います。

それと、村長からたまたま学童保育という話があったので、私はああ、よかったなと思っているんですが、私も4、5回ですかね、月1回ですが、学童保育といいますか学童と一緒に遊んでおりますが、学童のお守りというのは大変なんですよ。

それと、あそこの保育室へ行って、大きな部屋が1個、小さな部屋が1個かな、去年でしたかね、事務室が外へ出ましてその分広くなったんですが、それでもやっぱり狭い。35人か36人ほどおるんですが、出入りしますから常時30人ぐらいですかね。そういった子供たちが遊ぶというのも非常に大変なんです。5、6人の指導員の方と一緒にやっておるんですが。

ということから、あそこでやっている感じでは、部屋が1個というふうになっていまずけども、2つか3つあれば、もう少し子どもたちがそれなりの好きな遊び場所といい

ますか、今子どもが私にせがんでおるのは、チェスやってくれんかって。私はチェスを知らんもんだから、今勉強している最中なんです、読んでみると難しい。そういったことで、いろんな遊び場所、1室ではなかなかできないものですから、これからの問題でありまして、村長、またよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上。